



鉄筋二階建の近代的駅舎に 留萌駅らしい年は着工の見通し

留萌駅を、近代的な駅舎に改築する計画が着々進められ、昭和四十一年度に着工されるという明るい見通しがつきました。

留萌駅舎は、留萌に鉄道が敷かれた明治四十三年に建てられ、一部の改造をのぞくほか、ほとんど当時のま、現在使われています。

こうした留萌駅舎の改築は、早くから望まれていたのですが、昨年から留萌駅舎改築促進期成会が、本格的に運動に乗り出しています。

その結果、国鉄の建設計画にとまない、地元で一億一千四十五万円の国鉄利用債を引き受けることを、このほど開かれた期成会で決めたことにより、四十一年度着工の見通しがついたものです。

駅舎の改築構想は、現在の場所より、深川の方に五六十mほどよった所に、総額九千四百四十万円をかけ、鉄筋二階建て、中十八m、長さ八十四mのものを建てようというもので、駅舎のデザインは、将来の留萌市にマッチしたものにしよう、国鉄に交渉しています。

さらに、駅舎改築とともに、地下道の造成などに、一千六百九十五万円、鉄路などの構内施設改良に二億三千四百三万円をかけ、そ

れぞれの工事が行われますので、総額三億四千四百四十八万円の工費がかけられると見られます。

なお、工事は四十一年度に着工、四十三年には完成の予定ですが、これが完成しますと、羽幌線、深川線は、地下道を通ってホームに渡るようになるほか、増毛線は、あらたに留萌駅から発着線が設けられます。

市では、このあと昭和四十三年度以降に駅前広場を都市改築事業として造成し、四十五年頃には市の表玄関として面目を一新する計画です。

「私の生活観」 原稿を募集

「私の生活観」の原稿を募集しています。

生活は、私たちの父祖から私たちの時代へ、そしてまた子どもたちの世代へと流れている「人間の河」です。

その流れの中で、私たちは色々な生き方がありますが、とくに経済的な生活面で、生活を短期的な視点に立って考える人たちがいます。

しかし、戦後は人間の平均寿命が延び、戦前とは比較にならないほど長期の視点に立って設計することが必要ではないでしょうか。

このような意味から、道民各層の生活に対する考え方を募集し、日常のよすがにしようというものです。

／応募原稿
四百字詰め原稿用紙十枚以内にとめてください

／応募資格
道内居住者とし、原稿には、かならず住所、氏名（ふりがなを付ける）、職業、年令、家族一覽表（年令職業など）を付けてください。

／応募先
札幌市北三条西六丁目

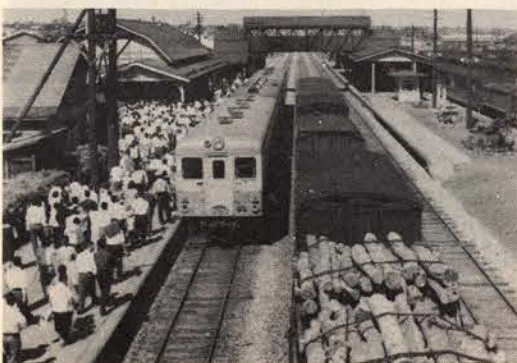
／賞金
特選（一）一万円
入選（二）五千円
佳作（三）二千円

特選または入選に該当するものがない場合は、その賞金の範囲内で佳作の編数をふやすことがあります。

／発表
昭和四十一年一月二十日

／しめ切期日
昭和四十年十二月三十一日（当日消印有効）

北海道総務部地方課内
北海道貯蓄推進委員会事務局



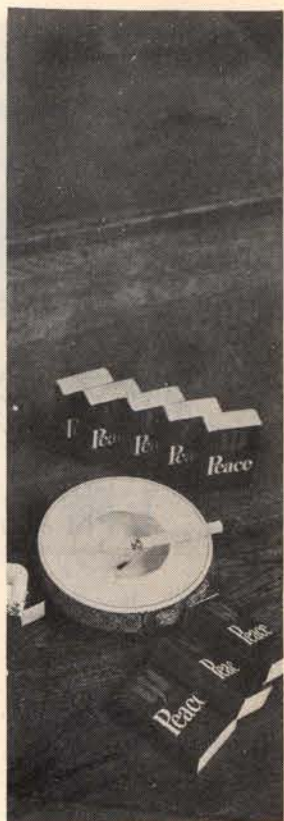
留萌駅舎の改築と 今後の鉄道輸送

運輸、交通網の整備充実は留萌地方の経済、文化の発展にかくことのできないものですが、とくに、昭和41年度から着工が予定されている留萌駅舎の改築と構内施設の改良は、今後の留萌市発展を約束したといえます。

つまり、この完成によって将来の10万都市を見越して、その時の旅客を十分に処理できること。さらに重要なことは、留萌市経済の柱となる留萌港の整備計画と歩調を合せていることです。

留萌港の荷物取扱量は、昭和50年に365万屯を予定しているの、これを十分に処理する施設を充実するという事です。

留萌市発展の基盤は、着々整備されているといえます。



たばこは地元で買おう たばこの中から二千八百万円

「たばこの中から二千八百万円」—この奇術めいたことばのタネ。じつは、みなさまが一年間に買ったたばこから、市の財源となった。たばこ消費税の金額です。

ご存じのように、たばこ消費税は、みなさまが市内で買った「たばこ」の中に含まれている間接税ですが、これが、市の収入となつて、財源の少ない留萌市にとっては、いろいろなお金に使われています。

いま、留萌市内では二十種類にのぼるたばこが売られていますが、あなたはどのたばこをのんでいますか

たばこ消費税は、どのたばこも十本当り四円二十銭九厘の割合いでその市町村に還元されることになって

け、地元の財源をうるおすことになるわけですよ。

三十九年度は、このたばこ消費税が、留萌市に二千八百七十九万三千三百八十円も還元され、市税決算額の一三、四%の割合をしめ、財源のとほしい市の有力な財源となつています。

ひと口に二千八百万円といいますが、もしこれをそっくり市営住宅の建設費にあてたとしますと、第一種の二階建てのもの三十戸建つことになりま。

（国の建築基準は約九十四万円でありますが、実際にはこのほかに費用がかかります。

地方自治体は、どこも財源が少なく、仕事をしようとしてもなかなか思うように行かないのが実情で留萌市も例外ではありません。

同じたばこを買えば、私たちが住んでいるまちを少しでもうるおすために、

沖見町に特定郵便局 真照寺付近に近く…着工

沖見町に、特定郵便局が設置されることになりました。

沖見町、春町、見晴町などの高台地区は、市街地にある本局、開運郵便局のどさらにも遠く、とくに、沖見町地区には住宅が増えるなど、早くから設置が望まれていたものです。

期成会を中心とする地元の人たちと、市が関係方面に働きかけたところ、数多くの道内設置希望の中から、その熱意が認められて、早急に設置が決つたものです。

沖見町の真照寺付近に設置を決め、工事を進めています。新年には仕事を始めます。

この郵便局は、無集配の特定郵便局で、料金後納郵便、市内特別郵便の取扱いはしませんが、その他の業務は全部取扱います。



四〇、二三〇人 国勢調査の 人口まとまる

ことし十月一日現在で行なわれた国勢調査による留萌市の人口がまとまりました。

調査によると、一万百六

十三世帯、人口四万二千三百八十人（男一万九千八百七十九人、女二万三千五百一十一人）となりました。

五年前に行なわれた国勢調査よりも、二千二百八十七世帯、四千四百三十二人（男二千四百四十人、女二千三百七十二人）増えています。

地域別では、農漁村人口七千二百四十一人、市街地

人口三万二千八百二十八人と、農漁村では七百七十五人減っているのに、市街地では五千三十六人増えています。

とくに、住宅団地への人が移動が認められ、元町の二百一人を筆頭に栄町、南町、錦町、本町、瀬越町、幸町、春日町の減少に対し、沖見町二千三百七十七人（

三十五年には九百九十六人）見晴町一千三百三十七人（同八百七十六人）の住宅地帯が急激に増えています。

なお、この国勢調査人口は、九月三十日現在の住民登録よりは二千八百十九世帯、人口一千九百四十七人（男九百四十九人、女九百九十八人）少なくなっています。